

第 四 問

(満点 100点)

第三問とあわせ
時間 2時間

下記の問いに答えなさい。

- 問 1** 「連結財務諸表原則」における個別財務諸表基準性の原則について、¹「企業会計原則」における正規の簿記の原則との関係、および²連結のための個別財務諸表の修正について説明しなさい。
- 問 2** ストック・オプションに係る新株予約権の発行時点における発行体の会計処理については、権利行使がなされるまで仕訳処理をしない考え方と発行時点で仕訳処理をする考え方がある。また、後者に関しては、その貸方勘定の性質に関して、¹負債とする説、²負債と資本の中間項目とする説、および³資本とする説がある。¹～³のそれぞれの根拠を示しなさい。
- 問 3** 長期請負工事に関して「企業会計原則」は、「販売費及び一般管理費を適当な比率で請負工事に配分し、売上原価及び期末たな卸高に算入することができる」(損益計算諸原則三、F)としている。このような処理が認められる理由を述べなさい。
- 問 4** 企業が国庫補助金を受けて固定資産に投資した場合、これを資本剰余金とすべきであるという考え方がある。この考え方について、賛否を論じなさい。